

株式会社 アイ・エム・シー ユナイテッド

2023年度 環境経営レポート

(活動期間:2023年4月～2024年3月)



2024年5月31日発行



目次

1.ご挨拶	1
2.会社概要	1
3.認証・登録の対象範囲	2
4.実施体制	2
5.株式会社 アイ・エム・シー ユナイテッド環境経営方針	3
6.環境経営目標	4
7.環境経営計画取組結果とその評価、次期への取り組み内容	5
8.環境関連法規等の遵守状況と違反、訴訟の有無	6
9.代表者の全体評価と見直し	6
10.環境経営活動の紹介	7

1.ご挨拶

株式会社アイ・エム・シーユナイテッドは、日本国内を活動範囲とし、工業用模型（鑄造用模型・検査治具・開発用モデル）を製造・販売する企業です。昭和60年の創業以来、多くのお客様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営み、お陰様で37年を迎えました。

この度当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって、地球環境に優しい企業として、新たな一步を踏み出しました。

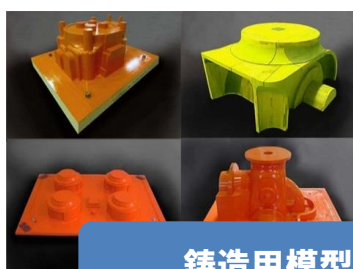
これを全社員に周知徹底し、環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んで行くことを宣言します。

株式会社アイ・エム・シー ユナイテッド
代表取締役 今津 正彦



2.会社概要

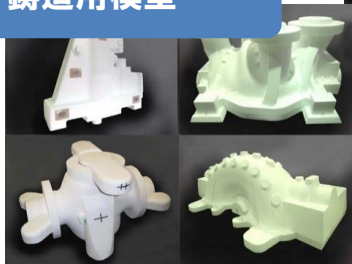
事業所名:	株式会社 アイ・エム・シー ユナイテッド	
代 表 者 :	代表取締役社長	今津 正彦
事 業 所 :	本 社	広島県広島市安佐北区安佐町 飯室2541-1
環境管理責任者:	管理部 課長	横川 幸良
担当者及び連絡先:	管理部 課長	横川 幸良
	TEL:082-819-0900 / FAX:082-819-0901	
	E-Mail:info@imcu.co.jp	
事業内容:	工業用模型の製造・販売	
事業規模:	資本金: 10,000千円	
	売上高: 500,920千円	
	従業員数:40名(正規 39名 / パート 1名)2024年5月現在	
事業年度:	8月～翌年7月末	



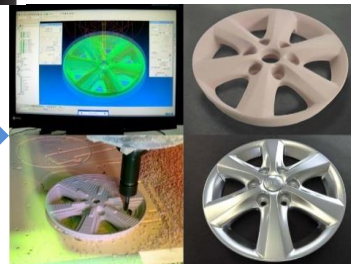
鑄造用模型



検査治具



開発用モデル

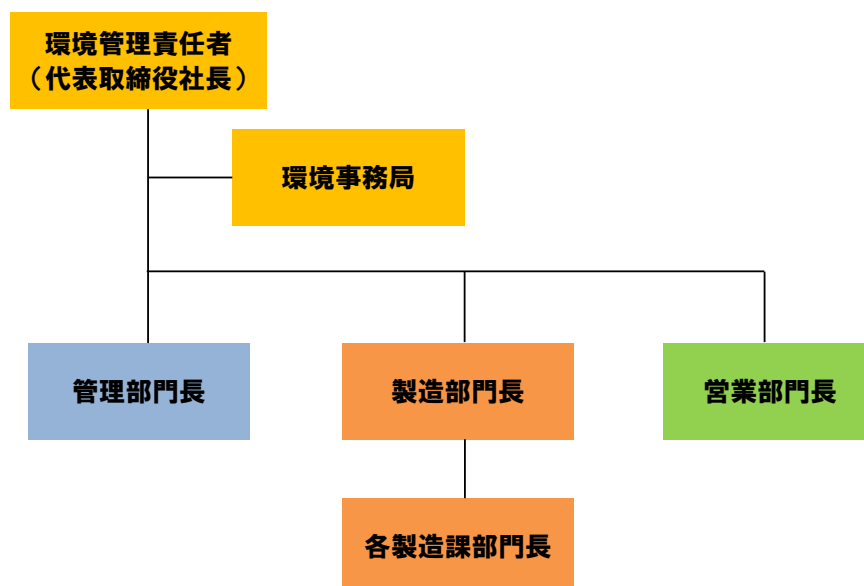


3.認証・登録の対象範囲

登録範囲は、全組織・全活動とする。

事業所名:	株式会社 アイ・エム・シー ユナйтеッド
対象事業所:	本社
事業内容:	工業用模型の製造・販売

4.実施体制



役割	
環境管理責任者	- 環境経営システムの実施に必要な、人員、設備、費用の準備 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境経営目標・環境経営活動計画書・環境経営レポートの承認 - 環境経営システム全体の構築、運用、維持 - 環境経営システムの構築、実施および運用管理 - 問題点の発見、是正、予防処置の確認及び評価 - 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境事務局	- 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境経営活動の実績データ等集計 - 環境関連の外部コミュニケーション窓口 - 環境関連法規の遵守状況の確認 - 環境管理責任者への報告 - 環境関連文書・記録の管理 - 環境経営レポートの作成 - 環境管理責任者の補佐
各部門長	- 自部門の環境経営目標および環境経営計画作成 - 部門における環境経営計画の実行および管理 - 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画、実施体制を従業員に周知 - 従業員に対する教育・訓練の実施 - 環境経営計画の取組結果を代表者へ報告 - 問題点の発見、是正・予防処置の確認および評価、代表者への報告
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境経営計画の取り組みの重要性を理解 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5.株式会社 アイ・エム・シー ユナイテッド環境経営方針

当社は、工業用模型の製造・販売を主とする事業において、全社一丸となったエコアクション21の活動を通じて積極的な環境への取り組みを推進する事で、環境負荷の低減と経営を両立させ、活動をスパイラルアップさせながら、持続可能な企業を存続し続けます。

1.省資源、省エネルギーに努め、脱炭素社会へ継続的に貢献します。

2.環境経営の仕組みを作り、環境に配慮する取り組みを通じ全社員が自ら考え、実践する企業風土を構築します。

3.環境関連の法令、規制を遵守します。

4.環境経営方針に関する教育を全社員に対して行います。

制定日：2022年7月31日

株式会社アイ・エム・シー ユナイテッド
代表取締役 今津正彦

経営理念

1. 顧客主義、高品質主義に立った経営

お客様の心からの満足の為に、先進と伝統の技術の融合、そして豊かな感性と創造性で優れた品質の価値ある製品・サービスを提供し続けます。

2. 人重視の経営

社員及び当社にかかわりを持って働く全ての人々が、一人ひとりの個性や創造性を尊重し合い、業務を通じて物心両面の豊かさを実現できる企業風土づくりを目指します。

3. 社会と調和した経営

社業の発展を通して、社員の福祉向上と雇用の創出に貢献し、地域社会のゆるぎない信頼獲得を目指します。

6.環境経営目標と目標対実績と判定

年度：4月～翌年3月

環境目標				単位	目 標						
					基準年度	2023年度			2024年度	2025年度	2026年度
					2022年度	目標	実施	判定			
1	二酸化炭素排出量の削減			k g-CO ₂	230,691	225,501以下 (－1.5%)	194,864	○	226,077以下 (－2%)	223,770以下 (－3%)	221,464以下 (－4%)
①	電力使用量の削減	電力 (※1)	kWh	322,403	317,567以下 (－1.5%)	287,138	○	315,955以下 (－2%)	312,731以下 (－3%)	309,507以下 (－4%)	
		電力 (※2)	kWh	55,764	54,928以下 (－1.5%)	55,636	×	54,649以下 (－2%)	54,091以下 (－3%)	53,533以下 (－4%)	
		電力 (※3)	kWh	51,215	51,984以上 (＋1.5%)	73,021	○	79,226以下	78,748以下	78,270以下	
		全社 合計	kWh	429,382	422,942以下 (－1.5%)	415,795	○	420,795以下 (－2%)	416,501以下 (－3%)	412,207以下 (－4%)	
	②	ガソリン使用量の削減	ℓ	5,631	5,546以下 (－1.5%)	6,105	×	5,518以下 (－2%)	5,462以下 (－3%)	5,405以下 (－4%)	
	③	軽油使用量の削減	ℓ	3,669	3,614以下 (－1.5%)	3,795	×	3,595以下 (－2%)	3,559以下 (－3%)	3,522以下 (－4%)	
	④	灯油使用量の削減	ℓ	2,195	2,162以下 (－1.5%)	2,010	○	2,151以下 (－2%)	2,129以下 (－3%)	2,107以下 (－4%)	
2	産業廃棄物排出量の削減			k g	25,592	25,208以下 (－1.5%)	25,351	×	25,080以下 (－2%)	24,824以下 (－3%)	24,568以下 (－4%)
3	水使用量の削減			m 3	125	今年度は実績確認	138	○	2022年度比 (－2%)	2022年度比 (－3%)	2022年度比 (－4%)
4	IMCU感謝祭と地域防災訓練の実施			隔年	2023年10月実施 IMCU感謝祭を行い地域に会社の活動内容を知ってもらい日ごろからの感謝を伝えるとともに地域包括協定に基づき防災拠点としての説明と防災訓練を実施した。						
5	製造部スキルマップを利用した指導教育の実施			半期	2024年4月より開始 製造部の個人別スキルマップを整備し直し、半期ごとに実績の評価と次への成長の目標をたてる。これにより個々のスキルアップを実現しより効率的な業務を行い時間外労働の削減を目指す。結果として電気の使用量の削減につながり二酸化炭素の排出を減らすことになる。						

注：※1電気事業者別二酸化炭素排出係数・2022年度の調整後排出係数：「中国電力(株)の：0.536kg-CO2/kWhを適用」
2024.9 から「日本テクノ(株)の：0.484kg-CO2/kWhを適用」

※2電気事業者別二酸化炭素排出係数：2022年度の調整後排出係数：「中国電力(株)の：0.536kg-CO2/kWhを適用」
2024.10 から「日本テクノ(株)の：0.484kg-CO2/kWhを適用」

(※1)工場

(※2)本社棟

(※3)太陽光発電

○化学物質は少量により適正管理とする

7.環境経営計画取組結果とその評価、次期への取組内容

目標を達成するための取組	実施状況	評価結果と次期の取組内容
二酸化炭素総排出量の削減:		
電力使用量の削減:		
エアコン温度の適正管理(夏:27度、冬21度)と使用時間の管理	○	各部屋別に設定温度を確認。部屋ごとに使用時間を見える化。退勤前30分前OFF。40分以上空室の場合はOFF。次年度も継続。
エアコンフィルターの定期清掃	○	各部屋ごとに定期的に清掃。次年度も継続。
照明器具の適正使用(不要時OFF)	○	休憩時間、不要時はOFF。次年度も継続。
夜間、休日のパソコンの主電源OFF	○	スイッチ式電源タップ導入。次年度も継続。
ガソリン使用量の削減:		
エコドライブ10の実施(手順書)	○	手順に従いエコドライブを心掛けた。次年度も継続。
車両の定期点検と整備の徹底	○	定期的に点検を行い不具合はその都度整備。次年度も継続。
エアコン温度調節	○	適正な温度調整に気を付けている。次年度も継続。
アイドリングストップ	○	出発の準備できてからエンジンを回す等工夫している。次年度も継続。
設備の軽油使用量の削減:		
定期点検と整備の徹底	○	定期的な点検と整備を行っている。次年度も継続。
効率的な生産工程	○	なるべく無駄のない生産工程を心掛けている。次年度も継続。
アイドリングストップ	○	不要な待機時間には動力を切るようにしている。次年度も継続。
一般廃棄物・資源ゴミの削減:		
分別によるリサイクルの推進	○	可燃と不燃を分別している。重要文書はシュレッダーしている。
両面コピー	○	コピーする際は両面コピーを心掛けている。次年度も継続。
裏紙使用	○	社内資料で差支えないものは裏紙を使用している。次年度も継続。
ペーパレスの推進	○	会議資料はデジタルサイネージで表示させたり、電子データで送付してなるべく紙での配布はしないようにしている。次年度も継続。
水使用量の削減:		
洗車時等の日常的な節水の励行	○	洗車の際は水の無駄遣いにならないように気を付けている。継続。
節水の呼びかけ	×	業務で水を使用する機会が少ないため呼びかけは不足。次年度改善。
産業廃棄物の削減:		
材料の効率的な使用	○	歩留まりが良くなるように材料を使用。次年度も継続。
廃材のリサイクル・有効利用の検討	○	端材の利用を常に検討している。次年度も継続。

8. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

主な環境関連法などおよび遵守評価結果は、下表の通りです。

環境関連法規等	遵守評価
廃棄物処理法	遵守
化学物質排出把握管理促進法	遵守
消防法	遵守
自動車リサイクル法	遵守
浄化槽法	遵守
道路運送車両法	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、特定されたすべて法規等が遵守されていることを2024年5月15日に確認しました。

なお、環境関連法規等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し

環境活動の取組を行い1年が経過しました。

活動の結果を数値で見える化することで効果をより実感することができています。

エネルギー価格の高騰を受けて電力の管理を中心に取り組みを進めています。

①太陽光発電システムによる自家発電の効果

②電力会社変更による電力単価と二酸化炭素排出係数の変更

③省エネ補助金を利用しコンプレッサー・エアコンを最新の省エネ設備に代替

大きく3つの取組を行い、電力使用量と二酸化炭素排出係数の削減を実現してきています。

廃棄物に関しては、無駄のない材料の使用は引き続き継続していきますが、受注量が増加したことに伴い廃棄物の増加も想定されましたが、全体で何とか減少させることができました。

水は生産過程でほぼ使用はないため積極的な呼びかけは足りませんでした。今後は節水についても考慮します。

化学物質については、実際の使用量は量産工場に比べれば少量です。適正管理を続けていきます。

今後も環境方針等は変更することなく、引き続き実態把握を続けながら状況に応じより有効な取り組みを模索して効果を検証していきます。